

広島

023

経済学部
学力検査問題

小論文

令和7年3月12日(水)

自 9時00分

至 11時00分

答案作成上の注意

1. この問題冊子は、表紙を含み6ページ(片面のみ)です。
2. 解答用紙は3枚、下書き用紙は2枚です。
3. 受験番号は、すべての解答用紙の受験番号欄に必ず記入してください。
また、解答用紙に氏名を記入してはいけません。
4. 解答は、すべて解答用紙の所定の箇所に横書きで記入してください。
5. 配付した問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ってください。ただし、解答用紙は持ち出してはいけません。

〔I〕 次の文章を読んで、下の問いに答えよ。

2013年9月に、2020年に東京でオリンピックが開催されることに決まった。自分が住んでいる国でオリンピックが開催されるというのは、国民にとって喜びであり、誇りだ。それに加えて、オリンピック開催の経済効果が期待されている。オリンピックによって外国からの観光客が増えることが、輸出振興に貢献するということも、しばしば指摘される。

一方で、オリンピックという一時的な催しに費用をかけることに否定的な意見も多い。どちらの考えが正しいのだろうか。多くの経済学者は、オリンピックの経済効果には否定的だった。しかし、オリンピック招致には輸出入を増やすという意外な効果があることが、最近明らかにされている。

(中略)

オリンピック開催に費用がかかるのも事実だ。様々な競技施設や宿泊施設の建設費や道路整備費は莫大なものだ。それだけの費用をオリンピック以外の教育や福祉に振り向ければ、私たちはもっと豊かな生活ができるかもしれない。それに、特定の競技にしか使えない設備や開催期間中というピーク時に合わせた宿泊施設は、オリンピック以降は過剰設備になってしまう可能性が高い。オリンピックが終わった後のことを考えても、本当に経済効果はプラスなのだろうか。

カリフォルニア大学バークレイ校のアンドリュー・ローズ教授とサンフランシスコ連銀のマーク・スピーゲル氏も、オリンピックの経済効果に懐疑的な研究者たちだった。少なくとも彼らが『エコノミック・ジャーナル』という経済学専門誌に2011年に掲載された「オリンピック効果」という論文を書くまでは。

彼らは国別のデータをもとに計量分析をして、オリンピックの開催経験が輸出を少なくとも20%長期的に増やすことを明らかにした。もともとオリンピックの経済効果に懐疑的だったのは彼ら自身である。そのため、彼らは様々な統計的なチェックを試みた上で、その結果が揺るぎないものであることを確認した。

しかも、興味深いことに、オリンピック開催国だけではなく、オリンピック招致国として選ばれなかった候補国も同様に、輸出が増えていたのである。輸出の増加は、オリンピック招致の決定直後から始まって、オリンピック開催後も低下しないことも明らかにされている。

(中略)

では、なぜオリンピック開催は、開催国の輸出を増やすのだろうか。ローズ教授らの解釈は、オリンピック招致に立候補するということは、政府がこれから貿易の自由化を本気でやるという意図を持っていることを企業や投資家に信じてもらえるようなシグナルとして機能するというものだ。こんなにお金がかかることにコミットするのだから、本気で貿易を自由化すると政府は考えているはずだ。それなら、安心して投資をしてよいと、企業や投資家は考えるというのだ。

(中略)

オリンピックというのは、様々な政策のコミットメント手段として有効なのであり、将来の政策に関する安心感をもたらすのだ。それが本当のオリンピックの経済効果なのかもしれない。

出典：大竹文雄『経済学のセンスを磨く』日本経済新聞出版社，2015年，39-43ページから一部抜粋・一部改変。

問題1 下線部の現象が生じる理由について、本文の内容を踏まえて150字以内で説明しなさい。

問題2 ローズ教授らの研究結果を踏まえて、オリンピック開催の経済効果について、ポジティブな側面、ネガティブな側面の両方に留意しつつ、自分の考えを400字以内で説明しなさい。

を勝たせない選挙方式に何があるかという点、ボルダールールがそうだ。

ではこの例に限らず、ボルダールールは、ペア全敗者を決して選ばない（1位にしない）のだろうか。そしてまた、ボルダールール以外に、ペア全敗者を選ばないスコアリングルールはあるのだろうか。

結論からいうと、有権者や候補が何人いようとも、順序付けがいかなるものであっても、決してペア全敗者を選ばないスコアリングルールは、ボルダールールしかない。「ペア全敗者をつねに選ばない」スコアリングルールは、ボルダールールだけなのだ。この意味において、ボルダールールは他のスコアリングルールと比べて、きわだってよい。

出典：坂井豊貴「民主主義にふさわしい選挙方式とは何か」『経済セミナー』No. 695, 2017年, 38-42ページから一部抜粋・一部改変。

問題 1 下線部において、ボルダールールでは A が勝者にならないことを 180 字以内で、論理の飛躍なく説明しなさい。

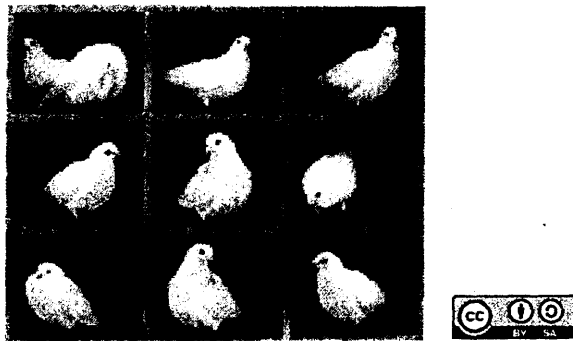
問題 2 日本における都道府県の知事や各市町村の長の選挙では、多数決が採用されている。もし日本の都道府県の知事や各市町村の長の選挙に多数決またはボルダールールを採用するとしたら、あなたはどちらを採用すべきだと考えるか。450 字以内であなたの考えを述べなさい。ただし、有権者は本文同様、各自の順序付けの通りに投票すると考えて構わない。

【Ⅲ】 次の文章はある数学者が書いた文章である。この文章を読んで、下の問いに答えよ。

私は小学校での出前授業もたくさん行ってきたが、ある学校で「この学校の生徒数は約 400 人です。そこで、1 年は 365 日か 366 日なので、この学校のある 2 人の生徒は誕生日が同じですね。(1) このような性質を『鳩の巣原理』と言いますと最初に発言したとき、(2) ある生徒は「先生、だったら、僕と誰が同じ誕生日なんですか」と質問され、「僕と誰かではなく、誰かと誰かなんだよ」と答えた。これは楽しい思い出である。

出典：芳沢光雄『AI 時代に生きる数学力の鍛え方—思考力を高める学びとは』東洋経済新報社、Kindle 版 Ver. 1.0, 2020 年, 126 ページから一部抜粋・一部改変。

問題 1 下線部 (1) について、なぜ『鳩の巣原理』というのか。その理由を、以下の鳩と鳩の巣の画像をヒントに、論理的に説明しなさい。



画像の著作権情報: <https://commons.wikimedia.org/wiki/File:TooManyPigeons.jpg>, Pigeons-in-holes.jpg by en:User:BenFrantzDale; this image by en:User:McKay, CC BY-SA 3.0 <<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>>, via Wikimedia Commons

問題 2 下線部 (2) について、ある生徒の発言とこの文章の著者の発言はどう違うのか、そしてどちらの発言が論理的に正しいのか、解答しなさい。なお、解答に際しては、「任意の」と「ある」という言葉をそれぞれ少なくとも 1 回は使用すること。

問題 3 下線部 (1) の『鳩の巣原理』を使った文章問題を作成したうえで、あなたが考えた文章問題とその詳細な解答を記述しなさい。「問題」と「解答」は区別して記述すること。